

主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業・水産）

1 日時・場所	平成30年10月25日（木）5・6限		鶏舎・農場本館情報処理室	
2 対象・人数	動物科学科1年生・20名			
3 科目・単元名	農業と環境		ニワトリの飼育	
4 本時の目標	① 飼育管理に必要な施設・設備と技術を振り返り、適切な管理方法を確認する。 ② これまでの飼育管理から育雛管理計画表を作成し、問題点や改善点を考察する。			
5 生徒の実態や課題	① 動物に興味のある生徒たちが大半で、授業に対し意欲的である。 ② 毎時間の授業内容（管理実習内容）は理解しても、なぜその実習が今必要なのかを考えることができていない。			
6 主体的・対話的で深い学びの場面	① これまでの育雛管理内容を、鶏舎を回り、使用した器具を確認しながら振り返る。 ② ①で確認した実習内容を、班ごとに話し合い、育雛計画表を作成する。 ③ ②で生徒が作成した育雛管理計画表と模範の計画表を比較し、問題点や改善点を班ごとに発表する。			
7 仮説	① これまでの育雛管理で使用した器具や施設を確認させ「振り返り」を行うことで、管理内容と生育段階ごとに行った雛の育雛方法を生育段階ごとに考えられるであろう。 ② ①で「振り返り」を行うことで、管理作業について、理解が深まり、育雛管理計画表を作成することができるであろう（班ごとにグループワークを行い、育雛計画表を作成する）。 ③ 作成した育雛管理計画表と模範例を比較することで、問題点や改善点などに気付くことができるであろう。 ④ ①～③の課題を踏まえることで、次回飼育する際の第2回育雛管理計画表を自ら考え、作成する力が身に付くであろう。			
8 評価するポイント	評価の観点	A（十分に満足）	B（おおむね満足）	C（努力を要する）
作成した育雛管理計画表と模範計画表を比較し、問題点・改善点が発見できている。	思考・判断・表現	作成した計画表と、模範計画表を見比べ、問題点と改善点を一つ以上発見できている。	問題点と改善点のどちらかが一つ以上発見できている。	問題点と改善点が発見できていない。

<p>9 主体的・対話的で深い学びの場面など</p>	 <p>振り返り(使用器具の確認)</p>	 <p>振り返り(管理内容の確認)</p>	
	 <p>グループワーク</p>	 <p>発問して発表させる場面</p>	
	<p>10 生徒の変容</p>	<p>① 第1回(今回)の育雛管理計画表の作成を通し、作成には日々の記録がとても重要なことに生徒たちが気づき、その後の記録を取る姿勢が変わった。</p> <p>② 雛の成長過程を表にしたことで雛の日齢における標準体重と比較することの大切さが分かり、標準体重との違いから飼育管理の問題点を見つけようとしていた。また、成長が遅れている雛に対して、給餌方法の改善、飼育環境の改善をした方がよいなど、生徒たちからさまざまな意見が出るようになった。</p>	
	<p>11 検証と考察</p>	<p>① 主体的・対話的で深い学びは、以前からプロジェクト学習の中で行われていたが、通常の授業や実習の中に取り入れるためには、教員側の授業の工夫が必要であることが分かった。</p> <p>② 育雛管理計画表に関すること以外にパソコン操作などにつまずく生徒があり、生徒のパソコン操作の実態をよく把握する必要があった。</p>	
<p>12 振り返りと改善</p>	<p>① 2回目以降の育雛管理では、日常からなぜこの管理が必要なのか、理解させるように心がけて実践をしていきたい。また、その実践を積み重ねて、育雛計画表を作成する際には、模範例と比較し、より多くの問題点や改善点を発見し、解決できる能力を養っていきたい。</p> <p>② 飼育管理を通して、目指す生徒像を明確にして、それに近づけるにはどのような学びが必要で、どう実行すればよいのか今後も研究していきたい。</p>		